

変更、食事量と盛りつけや品数の変更、睡眠状況と睡眠の促しや運動量の増加等であった。これ以外の心理や認知機能については、声かけ、誘導、食事の工夫、環境調整等が複合的に実施されており、全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

## 2. 入浴行為の課題解決に関する分析

### 1) 有効情報

入浴行為の課題解決における有効情報の傾向は、清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否いずれにおいても心理や気分、職員との関係、職員の声かけや対応などの介護方法、性格が重要視される傾向が認められた。逆に、認知機能や健康面、身体機能等は重要視される傾向が高くなかった。つまり、課題の原因として認知能力が主要な要因であったとしても、実際の対応時には、本人の気分や心理が重要視され、日頃の職員との関係や現在の対応方法や声かけを把握し、評価することが解決時に役立つ情報である傾向が示唆された。そして、いずれの課題においても性格を重要な情報として認識している傾向が認められており、入浴に関する課題が本人の性質によって生じているものと捉えられている傾向が明らかとなった。特に、洗髪拒否課題においては、洗髪時の反応や湯温、洗髪習慣が重要視されている点が他の2課題とは異なる特徴であった。

これらの傾向から、食事や排泄とは異なる入浴行為の特性が明らかとなったといえるだろう。つまり、食事や排泄行為は生理的な欲求を起因とした行動であり、生命維持機能といった側面から捉えれば、生物にとって必ず必要な行為であるが、入浴は欲求から起因するというよりも清潔保持を第一義的な目的として、血行促進や気分転換、習慣、あるいは好き嫌いといった入浴行為に対する考え方や嗜好と深く関与するいわば個人の恣意性に強く影響をうける行為である。よって、認知機能の低下等による影響があるとしても、個人的な入浴に対する習慣や考え方など個別的な要因に関わる行為であることから、課題の原因を個人的な特性に帰属させる傾向が強いものと考えられることができるだろう。

### 2) 解決方法

清拭拒否、洗髪拒否、入浴拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、入浴や清拭、洗髪方法の工夫、介助者の工夫、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。3課題の共通傾向については、声かけも誘導も好きな話題を使用したり、笑顔などの態度面や、お礼やねぎらいを多用したり安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。方法の工夫については、特に温度や時間帯など習慣を考慮した方法の工夫が実施されている。環境の調整は、入浴人数、浴室温度など人的環境を含めた入浴環境の工夫が実施されていた。介護者については、信頼関係の構築や同性介護を実施しており、入浴支援が介護者の性

別や信頼関係などと強く影響していることが示唆された。入浴自体が欲求と直接的に関連した行為でない事から、誘導方法や介助者が解決のための主要な要因であることが明らかとなった。

入浴行為に関する課題解決について重要な視点は、入浴という行為自体が高齢者本人の個人的な価値観や習慣などと大きく関連しており、本人理解を前提として安心感を強めるような方法が有効であることが示唆されたといえるだろう。

### 3) 有効情報と解決方法の組み合わせ

入浴行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、清拭拒否課題11パターン、洗髪拒否課題13パターン、入浴拒否課題13パターンに分類された(表3-11-2-1、表3-11-2-2、表3-11-2-3参照)。さらに身体状況、心理、認知機能、性格、入浴状況、介護方法、人間関係の7つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、7つの情報分類すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整、清拭・入浴・洗髪の工夫、介助者の工夫等が組み合わせて実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わせられてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。そして、有効情報の種類によらず実施される方法はほぼ共通している傾向が示唆された。有効情報をアセスメント視点と解釈した場合に、解決方法とアセスメント視点が直接的に関連していたのは、湯温や清拭布の温度、浴室温度と入浴や清拭等の時間帯であった。全体的に、声かけや誘導の工夫は全てのパターンにおいて実施されている傾向が認められた。

## 3. 排泄行為の課題解決に関する分析

### 1) 有効情報

排泄行為の課題解決における有効情報の傾向は、排泄誘導拒否、排泄介護拒否、放尿に共通している視点として心理や気分、職員との関係、介護者の声かけや対応が重要視される傾向が認められた。排泄誘導拒否における特徴は、排泄パターンが特に重要視されており、誘導タイミングの確認と考えられる。排泄介護拒否(パッド交換への抵抗)の特徴は、認知機能や抵抗時の様子、交換場所、性格を重視しており、認知機能や性格を課題の要因として考慮しながら、抵抗時の表情や様子を評価している傾向が明らかとなった。放尿における特徴は、尿意、排泄パターン、トイレの場所や表示を重視しており、環境面や健康面の情報が重要である傾向が明らかとなった。

以上の事から、排泄行為に関する課題は誘導や介護への抵抗や拒否といった課題については、職員との関係や誘導技法や交換方法についての改善につながる情報が有効であり、放尿については尿意感覚やトイレ環境に関する情報が重要である事が示唆さ

れた。

## 2) 解決方法

誘導拒否、介護拒否に対する解決方法は、声かけや誘導の工夫、環境の調整、介助方法、介助者の工夫、その他に分類され、放尿に対しては声かけ、誘導の工夫、環境調整、その他に分類された。全ての方法の実施率が高く特定の方法が解決に有効であるのではなく、これらの方法が組み合わされて実施されており、課題を解決するための方法は、複数の方法による総合的な効果によることが推測される。誘導拒否と介護拒否への対応方法の共通傾向については、声かけや誘導は好きな話題を使用したり、排泄パターンを考慮したり、トイレと意識させないような工夫や、賞賛やねぎらいを多用したり、安心あるいは、わかりやすい関わり方が特徴的であった。介助方法の工夫については、手際よく素早く介助したり、介助者と信頼関係を深めたり、同性が介護するなどの工夫が実施されていた。放尿への対応については、排尿パターンに応じた誘導やトイレを視界に入れながらの誘導など誘導の工夫が実施され、あるいはトイレの表示を工夫したり、夜間の照明をつけたり、視界にはいるようにトイレの位置を改善したりなど環境面の工夫が特徴的であった。

排泄行為の特徴は、非常に個人のプライバシーに関わるという特性を有しており、介護者との関係性が大きく影響している点と、排泄パターンに応じた対応が有効であり排泄パターンの把握は欠かせないアセスメント視点である。そして、信頼関係を構築している介護者が、声かけや誘導などの工夫によって解決に至る傾向が明らかとなった。さらには、特に放尿については、トイレ環境の改善や工夫が放尿課題を解決する上で有効であることが示唆された。

## 3) 有効情報と解決方法の組み合わせ

排泄行為に関する課題解決に有効な情報について、回答傾向から選択の組み合わせを分析し、重複する組み合わせを調整した結果、誘導拒否課題11パターン、介護拒否課題11パターン、放尿課題12パターンに分類された(表3-1 1-3-1、表3-1 1-3-2、表3-1 1-3-3参照)。さらに誘導拒否については、疾病、心理、排泄状況、人間関係の4つに、介護拒否については、認知機能、疾患、心理、排泄状況、対応方法、職員との関係の6つに、放尿は排泄状況、環境、職員関係の3つに分類した。有効情報と解決方法の組み合わせの傾向は、いずれの課題についても、分類された情報項目すべてについて、声かけ・誘導の工夫、環境調整が実施されており、複数の方法の総合的な効果によって課題が解決されたことが示唆された。有効な情報の種類によって、特定の解決方法が単一に実施され課題解決に至ったのではなく、複数の方法が組み合わされてそれらの相乗効果によって解決に結実したと推測される。課題に特徴的な傾向は、誘導拒否や介護拒否課題については、声かけや誘導を実施する介護者の性別や信頼感が重要であることや、放尿については、排泄パターンや尿意感覚、トイレ環境の状態と解決方法が直接的に連動している傾

向が明らかとなった。

### 3. 課題全体における傾向

食事、入浴、排泄行為に関する課題解決に関するアセスメント視点の共通傾向として、全ての課題について高齢者の心理や興味、認知機能、様子、習慣、体調を基礎視点として、物理的環境や人間関係、職員の声かけや関わりなどの周辺状況を同時に組み合わせてアセスメントしている傾向が明らかとなった。各課題に特有の視点として、食事行為に関する課題では食事の方法や運動量、口腔状況を重視し、入浴行為に関する課題では、入浴方法や排泄、水分状況を重視し、排泄行為に関する課題では、排泄パターンを重視しており、各課題に特徴的なアセスメント視点が示唆された。

解決方法の傾向としては、上記のアセスメント視点に応じて、声かけや誘導方法の工夫や、物理的な環境、人間関係の調整、食事・入浴の方法に関する工夫、体調管理などを組み合わせて実施しており解決方法の組み合わせパターンの傾向が明らかとなり、食事、入浴、排泄行為の課題を解決するためのアセスメント視点及びケアの組み合わせモデルが明らかとなった。本研究の課題は、数量的な解析によってアセスメントの組み合わせと、アセスメントパターンに応じたケアの組み合わせを明らかにし、先行する解決事例からいわば、多数の解決事例の共通点を抽出しモデルとして整理したが、これらの結果の妥当性を実際の介護と照合し、汎用性を検証する必要があるだろう。

表3-1-1-1-1 食事過剰要求を解決する際の視点と方法の組み合わせ

身体状況	必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率
	病態・症状	必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率	
身体状況	呼吸	<ul style="list-style-type: none"> <li>「病態・症状」</li> <li>「体質」</li> <li>「認知能力」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「病の位置」</li> <li>「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)の環境」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「他の入居者との関係」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣の席から離れる</li> <li>席の変更</li> <li>スタッフが一緒に食事をとる</li> <li>取手を要請し、会話を多くする</li> <li>待つておと置かけ</li> <li>食後のレクリエーション活動への誘導</li> <li>外出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7.2</li> <li>6.7</li> <li>15.7</li> <li>14.8</li> <li>8.0</li> <li>13.1</li> <li>87.9</li> </ul>
	水分排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水分状態」</li> <li>「排便状況」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他の入居者との関係」</li> <li>「スタッフとの関係」の人間関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣の席から離れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.7</li> </ul>
心理	運動機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動量」</li> <li>「体質」</li> <li>「睡眠時間・状況」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「気分」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「心配事・不愉快感」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>席の変更</li> <li>おやつや代替え品を提供</li> <li>スタッフが一緒に食事をとる</li> <li>取手を要請し、会話を多くする</li> <li>別の場所へ移動し、会話を多くする</li> <li>味の感度を調う</li> <li>食事時間の確認や説明を丁寧にする</li> <li>外出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11.2</li> <li>15.4</li> <li>5.4</li> <li>5.7</li> <li>6.4</li> <li>13.4</li> <li>5.6</li> <li>13.8</li> </ul>
	心理	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「心配事・不愉快感」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「気分」</li> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活習慣(ごこ数年)」</li> <li>「生活環境(年少期から)」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>21.2</li> <li>4.3</li> <li>4.2</li> <li>5.5</li> <li>4.5</li> <li>7.5</li> <li>7.3</li> <li>13.2</li> <li>9.2</li> <li>8.8</li> <li>8.4</li> <li>13.7</li> </ul>
認知機能	認知機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「気分」</li> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「気分」</li> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活習慣(ごこ数年)」</li> <li>「生活環境(年少期から)」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.3</li> <li>4.2</li> <li>5.5</li> <li>4.5</li> <li>7.5</li> <li>7.3</li> <li>13.2</li> <li>9.2</li> <li>8.8</li> <li>8.4</li> <li>13.7</li> </ul>
	認知機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能の症状」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「食事時の雰囲気」</li> <li>「気分」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能の症状」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「食事時の雰囲気」</li> <li>「気分」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能の症状」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「食事時の雰囲気」</li> <li>「気分」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16.7</li> <li>17.3</li> <li>28.3</li> <li>10.3</li> <li>7.7</li> </ul>
食事量	食事量	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15.4</li> <li>20.2</li> <li>16.1</li> <li>9.0</li> <li>8.1</li> <li>11.4</li> <li>4.9</li> <li>3.6</li> <li>6.9</li> <li>40.8</li> <li>4.7</li> <li>10.0</li> </ul>
	食事量	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15.4</li> <li>20.2</li> <li>16.1</li> <li>9.0</li> <li>8.1</li> <li>11.4</li> <li>4.9</li> <li>3.6</li> <li>6.9</li> <li>40.8</li> <li>4.7</li> <li>10.0</li> </ul>
食事状況	食事状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.9</li> <li>9.4</li> <li>32.2</li> <li>5.1</li> <li>7.2</li> <li>6.9</li> <li>27.0</li> </ul>
	食事状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.9</li> <li>9.4</li> <li>32.2</li> <li>5.1</li> <li>7.2</li> <li>6.9</li> <li>27.0</li> </ul>

身体状況	必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率
	病態・症状	必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率	
身体状況	呼吸	<ul style="list-style-type: none"> <li>「病の位置」</li> <li>「周囲の雰囲気・刺激(音・光・匂い)の環境」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「他の入居者との関係」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣の席から離れる</li> <li>席の変更</li> <li>スタッフが一緒に食事をとる</li> <li>取手を要請し、会話を多くする</li> <li>待つておと置かけ</li> <li>食後のレクリエーション活動への誘導</li> <li>外出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣の席から離れる</li> <li>席の変更</li> <li>おやつや代替え品を提供</li> <li>スタッフが一緒に食事をとる</li> <li>取手を要請し、会話を多くする</li> <li>別の場所へ移動し、会話を多くする</li> <li>味の感度を調う</li> <li>食事時間の確認や説明を丁寧にする</li> <li>外出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>29.9</li> <li>35.2</li> <li>25.2</li> <li>14.7</li> <li>6.1</li> <li>5.5</li> <li>7.3</li> </ul>
	水分排泄	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水分状態」</li> <li>「排便状況」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「他の入居者との関係」</li> <li>「スタッフとの関係」の人間関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>隣の席から離れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.7</li> </ul>
心理	運動機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「運動量」</li> <li>「体質」</li> <li>「睡眠時間・状況」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「気分」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「心配事・不愉快感」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活習慣(ごこ数年)」</li> <li>「生活環境(年少期から)」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.5</li> <li>7.3</li> <li>7.4</li> <li>16.0</li> <li>11.0</li> <li>12.4</li> <li>10.3</li> <li>9.1</li> <li>6.8</li> <li>5.9</li> <li>5.8</li> <li>6.4</li> <li>7.0</li> <li>11.9</li> </ul>
	心理	<ul style="list-style-type: none"> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「心配事・不愉快感」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「気分」</li> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活習慣(ごこ数年)」</li> <li>「生活環境(年少期から)」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>21.2</li> <li>4.3</li> <li>4.2</li> <li>5.5</li> <li>4.5</li> <li>7.5</li> <li>7.3</li> <li>13.2</li> <li>9.2</li> <li>8.8</li> <li>8.4</li> <li>13.7</li> </ul>
認知機能	認知機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「気分」</li> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> <li>「気分」</li> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生活習慣(ごこ数年)」</li> <li>「生活環境(年少期から)」</li> <li>「本人の気持ち・意志」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4.3</li> <li>4.2</li> <li>5.5</li> <li>4.5</li> <li>7.5</li> <li>7.3</li> <li>13.2</li> <li>9.2</li> <li>8.8</li> <li>8.4</li> <li>13.7</li> </ul>
	認知機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能の症状」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「食事時の雰囲気」</li> <li>「気分」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能の症状」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「食事時の雰囲気」</li> <li>「気分」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能の症状」</li> <li>「スタッフの声かけ内容・見守り方」</li> <li>「食事時の雰囲気」</li> <li>「気分」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16.7</li> <li>17.3</li> <li>28.3</li> <li>10.3</li> <li>7.7</li> </ul>
食事量	食事量	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15.4</li> <li>20.2</li> <li>16.1</li> <li>9.0</li> <li>8.1</li> <li>11.4</li> <li>4.9</li> <li>3.6</li> <li>6.9</li> <li>40.8</li> <li>4.7</li> <li>10.0</li> </ul>
	食事量	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「認知機能・認知度」</li> <li>「食の食事量・おやつ量」</li> <li>「食の食事量」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>15.4</li> <li>20.2</li> <li>16.1</li> <li>9.0</li> <li>8.1</li> <li>11.4</li> <li>4.9</li> <li>3.6</li> <li>6.9</li> <li>40.8</li> <li>4.7</li> <li>10.0</li> </ul>
食事状況	食事状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.9</li> <li>9.4</li> <li>32.2</li> <li>5.1</li> <li>7.2</li> <li>6.9</li> <li>27.0</li> </ul>
	食事状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「食の嗜好・興味・意欲」</li> <li>「調剤薬・空調器」</li> <li>「スタッフとの関係」</li> <li>「夜間」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6.9</li> <li>9.4</li> <li>32.2</li> <li>5.1</li> <li>7.2</li> <li>6.9</li> <li>27.0</li> </ul>

表3-11-1-1-2 食事拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

		必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率	
身体状況	水分摂取	「水分状態」 「排便状況」 「体調」	食事前にお茶を提供 食べやすいよう、盛りつけを工夫 カリウムを考慮し、おやつを提供 水分摂取量を増やした 活動量を増やす	16.0 5.9 11.9 33.3 9.6	
	体調・運動量	「体調」 「睡眠時間・状況」 「排便量」 「排便状況」	本人ベースで声かけ 活動量を増やす ぐっすり眠ってもらうようにした 一週、休養	25.3 21.7 6.1 11.5	
	口腔機能	「咀嚼力」 「嚥下状態・嚥嚥」 「口腔状況」 「食の嗜好・興味・意欲」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」	本人ベースで声かけ 声かけの内容を工夫 4.2 食べやすいよう、盛りつけを工夫 食材の形、色等の工夫 角磨練習 嚥嚥調整	4.9 4.2 23.3 15.4 7.0 10.6	
	睡眠	「睡眠時間・状況」 「運動量」 「体調」 「薬の種類、服薬状況」	活動量を増やす ぐっすり眠ってもらうようにした 一週、休養	40.4 28.8 7.6	
	気持ち		好きな場所で食事を取る 本人ベースで声かけ 食事前からこまめに声かけ 「スタッフの声かけ内容・見守り方」、「スタッフとの関係」	4.7 28.6 4.2 7.3	
	心理		コミュニケーションをふやす 好きな場所で食事を取る	9.3 7.6	
	認知機能	「認知症の症状」 「認知機能」 「認知症の種類」 「気分」 「本人の気持ち、意志」 「生活習慣」	本人ベースで声かけ 食べやすいよう、盛りつけを工夫 水分摂取量を増やした 活動量を増やす コミュニケーションをふやす 医療的対応	15.6 7.3 4.2 16.2 9.3 8.0	
	嗜好		食事内容、献立の説明 食べやすいよう、盛りつけを工夫 外出時、外食に誘導 好きな食べ物を見せる 好きな献立にする	13.7 17.4 6.9 17.7 14.1	
	食事	「盛り付け」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」 「食器の配置」 「食の嗜好・興味・意欲」	声かけをせず、職員が一緒に配膳してもらう 食事内容、献立の説明 食べやすいよう、盛りつけを工夫 好きな食べ物を見せる 好きな献立にする	7.6 4.6 10.3 39.6 12.5 9.4	
	食事量		本人ベースで声かけ 食事内容、献立の説明 食べやすいよう、盛りつけを工夫 カリウムを考慮し、おやつを提供 一緒に買い物に行き、好きなメニューにする 好きな食べ物を見せる	4.3 12.0 12.4 36.4 4.6 11.7	
食事中状態	「表情」、「食中の様子」、 「食事中の会話」、「目線」 「スタッフとの関係」	本人ベースで声かけ 声かけをせず、職員が一緒に好きな話題で声かけ 食べやすいよう、盛りつけを工夫 一週、休養 コミュニケーションをふやす	14.4 16.8 11.7 5.2 4.3 4.5		
その他	声かけ		本人ベースで声かけ 食事前からこまめに声かけ 声かけをせず、職員が一緒に好きな話題で声かけ 調理を手伝う ぐっすり眠ってもらうようにした コミュニケーションをふやす	24.0 4.3 10.0 8.0 4.6 4.2 13.5	
		席位置	「周囲の雰囲気、刺激(音・光・匂い)」 「席の位置」 「他の入居者との関係」	少人数席に変更 好きな場所で食事を取る 本人ベースで声かけ 生活のリズム調整	21.4 12.6 11.4
		人間関係	「スタッフとの関係」 「家族関係」 「他の入居者との関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「気分」 「本人の気持ち、意志」	本人ベースで声かけ 声かけをせず、職員が一緒に好きな話題で声かけ 家族の話題 調理を手伝う 活動量を増やす コミュニケーションをふやす 寛容し、安心してもらう 好きな話題で声かけ 家族の話題 好きな献立にする コミュニケーションをふやす 寛容し、安心してもらう 好きな場所で食事を取る 本人ベースで声かけ	10.7 5.1 9.2 6.9 4.0 10.5 17.0 4.6 10.1 24.5 4.6 16.6 16.2 4.9 7.1
	家族、生活		「家族関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「生活リズム(夕刻から)」 「心配(お風呂)」 「本人の気持ち、意志」 「所持品/経済不安」	「家族関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「生活リズム(夕刻から)」 「心配(お風呂)」 「本人の気持ち、意志」 「所持品/経済不安」	4.6 10.1 24.5 4.6
			「生活習慣(ご挨拶)」 「生活習慣(お風呂)」 「食生活の改善」	「生活習慣(ご挨拶)」 「生活習慣(お風呂)」 「食生活の改善」	4.9
			「スタッフの声かけ内容・見守り方」	「スタッフの声かけ内容・見守り方」	7.1

表3-1-1-3 食事中断を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)	実施率
身体状況	体調・睡眠	急かさず、声かけの繰り返し ベースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る	14.2 16.8 24.8
	排泄状況	食事前の活動を促す 本人の気持からの確認、質問	7.2 8.6
	口腔機能	食事前にトイレへ誘導 食物の形態を変更	73.4 67.3
	嚥下機能	嚥下状態・嚥下 「口の状況」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」	15.3
	活動量	急かさず、声かけの繰り返し ベースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る	7.8 17.3 16.3
	心理面	職員と一緒に 食物の形態を変更 食事前の活動を促す	11.6 8.7 7.8
	心理	食事前にトイレへ誘導 急かさず、声かけの繰り返し ベースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る	11.0 6.4 11.5 10.4
	認知機能	「本人の気持ち、意志」 「気分」 「心配ごと、不満」	9.2 7.6
	認知機能	「目録」 「認知機能」 「姿勢」 「本人の気持ち、意志」 「体力・視覚機能」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	7.5 14.1 12.3 11.0 4.2
	食事の嗜好	「食の嗜好・興味・意欲」 「気分」	19.1
食事状況	「生活習慣(二歳年)」 「生活歴(幼少期から)」 「家族関係」 「本人の気持ち、意志」 「食の嗜好・興味・意欲」	19.1 11.1 13.8 5.1	
座付・配置	「食器の配置」 「座付」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」 「認知機能」	17.3 5.8 15.2 16.2 7.4 14.0	

必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)	実施率
食事状況	食事量	「最近の食事量」 「当日の食事量・おやつ量」 「満腹感、空腹感」 「盛り」 「食の嗜好・興味・意欲」 「食材の質(形・固さ・味・匂い・温度)」	6.5 18.3 6.0 4.7 21.7
	食器の大きさ	好みのものにする	9.7
	おやつ・間食	おやつ、間食	8.8
	食事の盛り方の工夫	食事の盛り方の工夫	4.6
	ベース	ベースを尊重し、食事の促し 食事の認識を促す	22.3 8.4
	食物の形態	食物の形態を変更 職員と一緒に 「他の入居者との関係」 「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」	32.4 13.1 9.2 21.8
	物理的・人的環境	静かな環境で 急かさず、声かけの繰り返し ベースを尊重し、食事の促し 無理に促さず、見守る 食事を一掃止め、待つ 仲の良い人と食べる 好きな場所	10.8 6.4 7.0 11.6 7.4 8.1 9.8
	人間関係	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」 「食事中の会話」	8.6 8.9 8.0 26.4
	食器の大きさ	好みのものにする	10.6

表3-11-1-2-1 清拭拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

		必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率	
身体状況	清潔度	「清潔度」 「室温低さ」 「湿度低さ」 「清潔状況」 「換気状況」 「着脱能力」	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「清潔状況」 「着脱能力」	トイレ前・実施	21.6	トイレ前・実施	5.2
				薬を塗るため	20.5	トイレ前・実施	5.3
	心理	「興味・関心」 「本人の気持ち」 「気分」	清潔、血行など効果の説明	22.9	声かけの態度を説明	17.0	
			一人で	6.0	声かけの態度の工夫	16.7	
			陣かいタオルを渡す自分で	5.5	声かけを簡単に	11.0	
			トイレ前・実施	14.8	お礼やねぎらいを	7.2	
			清拭時間を本人のペースで	5.4	1人で	14.6	
			薬を塗るため	7.9	信頼関係が出来ている介助者	13.7	
			清潔、血行など効果の説明	13.5	コンプレックスを確認	5.9	
			声かけを簡単に	12.2	トイレ前・実施	13.1	
			信頼関係が出来ている介助者	17.4	気持ちをよくつがるがせる	7.7	
			コンプレックスを確認	5.9	清潔、血行など効果の説明	17.0	
			気持ちをよくつがるがせる	16.9	声かけの態度の工夫	5.4	
家族からの依頼	10.3	お礼やねぎらいを	7.3				
内科受診のため	5.3	1人で	5.0				
始者から誘導	8.7	信頼関係が出来ている介助者	6.1				
声かけの態度の工夫	6.2	コンプレックスを確認	15.9				
お礼やねぎらいを	7.7	部分から開始	5.6				
気持ちをよくつがるがせる	7.9	気持ちをよくつがるがせる	5.6				
家族からの依頼	6.9	家族からの依頼	17.8				
声かけの態度の工夫	6.0	声かけの態度の工夫	8.4				
薬を塗るため	8.0	温度調節	8.6				
声かけの態度の工夫	9.5	清潔場所の調整	5.3				
19.7	一人で	1人で	6.6				
清潔場所の調整	5.8	コンプレックスを確認	5.3				
陣かいタオルを渡し自分で	6.4	コンプレックスを確認	10.5				
部分から開始	6.2	家族からの依頼	5.6				
トイレ前・実施	5.0	声かけの態度の工夫	15.5				
気持ちをよくつがるがせる	9.3	お礼やねぎらいを	15.4				
薬を塗るため	5.6	信頼関係が出来ている介助者	20.7				
声かけの態度の工夫	6.9	コンプレックスを確認	11.6				
温度調節	12.9	他者から誘導	22.0				
清潔布の温度	12.5	清潔場所の調整	5.3				
清潔場所の調整	5.9	1人で	27.1				
部分から開始	22.9	信頼関係が出来ている介助者	6.1				
家族からの依頼	8.8	複数のスタッフ	5.4				
内科受診のため	10.0	コンプレックスを確認	17.5				
温度調節	6.4						
信頼関係が出来ている介助者	16.5						
家族の協力	5.2						
コンプレックスを確認	5.1						
トイレ前・実施	9.3						
清拭時間を本人のペースで	5.4						
気持ちをよくつがるがせる	10.0						
家族からの依頼	10.2						
内科受診のため	5.0						
他者から誘導	5.7						
声かけを簡単に	5.0						
清潔に誘う	7.7						
清潔布の温度	8.6						
信頼関係が出来ている介助者	5.8						
コンプレックスを確認							

		必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)		実施率	
介護・対応	介護者の性別	「気分」 「本人の気持ち」 「生活歴(幼少期から)」 「言語理解」	「本人の気持ち」 「本人の性別」 「生活歴(幼少期から)」 「言語理解」	部分から開始	5.2	部分から開始	5.2
				トイレ前・実施	5.3	トイレ前・実施	5.3
				気持ちをよくつがるがせる	17.0	気持ちをよくつがるがせる	17.0
人間関係	介護者の性別	「興味・関心」 「本人の気持ち」 「気分」	「本人の気持ち」 「本人の性別」 「生活歴(幼少期から)」 「言語理解」	声かけの態度の工夫	16.7	声かけの態度の工夫	16.7
				声かけを簡単に	11.0	声かけの態度の工夫	16.7
				お礼やねぎらいを	7.2	お礼やねぎらいを	7.2
				1人で	14.6	1人で	14.6
				信頼関係が出来ている介助者	13.7	信頼関係が出来ている介助者	13.7
				コンプレックスを確認	5.9	コンプレックスを確認	5.9
				トイレ前・実施	13.1	トイレ前・実施	13.1
				気持ちをよくつがるがせる	7.7	気持ちをよくつがるがせる	7.7
				清潔、血行など効果の説明	17.0	清潔、血行など効果の説明	17.0
				声かけの態度の工夫	5.4	声かけの態度の工夫	5.4
				お礼やねぎらいを	7.3	お礼やねぎらいを	7.3
				1人で	5.0	1人で	5.0
信頼関係が出来ている介助者	6.1	信頼関係が出来ている介助者	6.1				
コンプレックスを確認	15.9	コンプレックスを確認	15.9				
部分から開始	5.6	部分から開始	5.6				
気持ちをよくつがるがせる	17.8	気持ちをよくつがるがせる	17.8				
家族からの依頼	8.4	家族からの依頼	8.4				
声かけの態度の工夫	8.6	声かけの態度の工夫	8.6				
温度調節	5.3	温度調節	5.3				
清潔場所の調整	6.6	清潔場所の調整	6.6				
1人で	5.3	1人で	5.3				
コンプレックスを確認	10.5	コンプレックスを確認	10.5				
家族からの依頼	5.6	家族からの依頼	5.6				
声かけの態度の工夫	15.5	声かけの態度の工夫	15.5				
お礼やねぎらいを	15.4	お礼やねぎらいを	15.4				
信頼関係が出来ている介助者	20.7	信頼関係が出来ている介助者	20.7				
コンプレックスを確認	11.6	コンプレックスを確認	11.6				
他者から誘導	22.0	他者から誘導	22.0				
清潔場所の調整	5.3	清潔場所の調整	5.3				
1人で	27.1	1人で	27.1				
信頼関係が出来ている介助者	6.1	信頼関係が出来ている介助者	6.1				
複数のスタッフ	5.4	複数のスタッフ	5.4				
コンプレックスを確認	17.5	コンプレックスを確認	17.5				



表3-11-2-2 洗髪拒否を解決する際の根拠と方法の組み合わせ

身体状況	清潔度、皮膚状態	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)		実施率
			声かけ	声かけ以外の関係	
認知機能	清潔度 [本人の気持ち、意志] 皮膚状態 [洗髪への反応・様子] [スタッフの声かけ内容・見守り方]	「認知機能」 [介護者の性別] [本人の気持ち、意志] [気分]	一部分から	洗髪後の手入れを行う	5.3
			不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 洗髪の知識を説明 コンプレックスを軽減	声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 複数のスタッフ 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい	28.0 9.2 14.6 6.9 5.9 21.6 17.4
性格	性格 [性格] [スタッフの声かけ内容・見守り方]	「性格」 [スタッフの声かけ内容・見守り方]	声かけ	声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 介助者の工夫	8.5 6.4 24.2
			他者関係	「他の人関係との関係」 「過去の人関係」	声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 仲の良い人と一緒に入浴 1人で コンプレックスを軽減
心理	心理、興味 [気分] [本人の気持ち、意志] [興味・関心] [スタッフの声かけ内容・見守り方]	「気分」 [本人の気持ち、意志] [人浴のこだわり] [人浴時間帯] [スタッフとの関係]	一部分から	洗髪後の手入れを行う	12.3
			一部分から 湯船につかたり、浴槽から 不安を軽減しながら 洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 1人で 介助者の工夫	洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 1人で コンプレックスを軽減 顔に湯がかからない工夫 一部分から 湯船につかたり、浴槽から 不安を軽減しながら 洗髪後の手入れを行う 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 好きな話題で会話しながら 1人で 洗髪後の手入れを行う 髪を乾かすため 好きな話題で会話しながら 1人で 複数のスタッフ 一部分から 洗髪後の手入れを行う 湯を乾かすため 好きな話題で会話しながら 1人で 複数のスタッフ 顔に湯がかからない工夫 一部分から 不安を軽減しながら 浴室温度調整 湯温調整 湯船につかたり、浴槽から 浴室温度調整 湯温調整 湯船につかたり、浴槽から 浴室温度調整 湯温調整 一部分から 浴室温度調整 1人で 複数のスタッフ 声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ 顔に湯がかからない工夫 一部分から 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 湯温調整 介助者の工夫	7.2 7.1 5.7 6.0 5.7 7.8 11.6 12.2 12.8 5.4 7.2 7.7 7.9 16.8 9.6 7.2 8.3 21.4 9.6 13.2 36.7 5.3 79.5 8.9 17.3 7.6 15.5 8.7 8.6 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6 6.5
入浴状況	湯温 [湯温] [シャワーの水圧] [浴室の温度]	「湯温」 [シャワーの水圧] [浴室の温度]	湯温調整	湯船につかたり、浴槽から	13.3
			湯温調整 湯船につかたり、浴槽から 浴室温度調整 湯温調整 湯船につかたり、浴槽から 浴室温度調整 湯温調整 一部分から 浴室温度調整 1人で 複数のスタッフ 声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ 顔に湯がかからない工夫 一部分から 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 湯温調整 介助者の工夫	湯船につかたり、浴槽から 浴室温度調整 湯温調整 湯船につかたり、浴槽から 浴室温度調整 湯温調整 一部分から 浴室温度調整 1人で 複数のスタッフ 声かけの態度を工夫 1人で 複数のスタッフ 顔に湯がかからない工夫 一部分から 不安を軽減しながら 声かけの態度を工夫 お礼やねぎらい 湯温調整 介助者の工夫	13.2 36.7 5.3 79.5 8.9 17.3 7.6 15.5 8.7 8.6 31.8 15.7 17.2 14.7 8.6 7.4 7.4 6.9 11.3 13.6 6.5

表3-11-2-3 入浴拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

体調	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
身体状況	「名前・居住歴」 「イタタリ」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「認知機能」	本人の状態に応じた時間	5.4
		入浴前コミュニケーション	5.8
		暖まるからと声かけ	11.0
		入浴中のコミュニケーションを増やす	7.8
		浴室温度を調整	13.0
		湯温の調整	9.4
		拒否の理由伺う	12.8
		トイレ誘導時に一緒に	33.6
		段階的な誘導	6.6
		下着の着れが見られないように	16.9
心理	「失禁有無」 「湯温度」 「排便状況」 「下着の状況」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」	入浴前コミュニケーション	12.0
		繰り返し誘導	5.8
		入浴中のコミュニケーションを増やす	8.5
		笑顔でゆっくり	9.4
		お礼やねぎらい	6.1
		入浴前コミュニケーション	14.7
		趣味活動を実施した	8.8
		本人の状態に応じた	6.9
		繰り返し誘導	7.5
		入浴中のコミュニケーションを増やす	10.1
認知機能	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「気分」 「覚醒レベル」 「認知機能」 「スタッフとの関係」	入浴前コミュニケーション	8.1
		繰り返し誘導	5.8
		浴室へ誘導し認識を促す	6.2
		入浴中のコミュニケーションを増やす	7.0
		笑顔でゆっくり	7.8
		繰り返し誘導	6.5
		入浴中のコミュニケーションを増やす	5.3
		笑顔でゆっくり	10.3
		お礼やねぎらい	12.4
		複数のスタッフ	5.9
性格	「性格」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち、意志」 「気分」 「他者」 「認知機能」	スタッフを分けた	5.1
		拒否の理由伺う	5.6
		家族から入浴情報を得る	5.7
		湯を盛るため、医師の指示	6.2
		家族の直会・依頼	6.9
		他者から誘導	8.3
		仲の良い人と一緒に	5.5

入浴習慣	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
入浴状況	「入浴習慣(自覚)」 「生活歴(幼少期から)」 「過去の入浴体験」 「入浴のこだわり」 「本人の気持ち、意志」	過去の入浴時間	6.7
		本人の状態に応じた時間	6.4
		家族から入浴情報を得る	15.3
		目や耳などを保護	5.2
		入浴習慣を取り入れる	7.1
		浴室温度を調整	5.0
		湯温の調整	6.7
		暖まるからと声かけ	6.5
		徐々に湯温をかける	7.7
		浴室温度を調整	24.9
その他	「湯温」 「浴室の温度」 「入浴のこだわり」	湯温の調整	30.7
		過去の入浴時間	7.5
		本人の状態に応じた時間	8.5
		入浴前コミュニケーション	8.4
		趣味活動を実施した	6.8
		トイレ誘導時に一緒に	5.5
		本人の状態に応じた	7.1
		繰り返し誘導	6.3
		過去の入浴時間	13.2
		本人の状態に応じた時間	21.3
温度	「本人の気持ち、意志」 「気分」 「入浴のこだわり」	入浴前コミュニケーション	8.0
		繰り返し誘導	8.2
		仲の良い人と一緒に	5.1
		一人で	5.9
		拒否の理由伺う	6.1
		本人の状態に応じた時間	5.8
		入浴前コミュニケーション	11.8
		暖まるからと声かけ	6.0
		本人の状態に応じた	6.1
		繰り返し誘導	5.1
その他	「気分」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「湯温」 「浴室の温度」 「着替えのストック」 「本人の気持ち、意志」	浴室へ誘導し認識を促す	5.7
		身体の一部から	6.1
		段階的な誘導	7.1
		入浴中のコミュニケーションを増やす	5.7
		笑顔でゆっくり	6.6
		徐々に湯温をかける	5.6
		浴室温度を調整	5.7
		湯温の調整	5.1
		繰り返し誘導	6.0
		入浴中のコミュニケーションを増やす	5.6

表3-11-3-1 排泄誘導拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

疾病	必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
病歴	「生活歴(幼少期から)」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「視納・既往歴」	本人の行動・状態に応じて 外出してから 衛生・疾病の説明	19.6 19.5 19.6
排泄状況	「排便状況」 「排便状況」 「失禁有無」 「水分状態」 「便の状態」 「尿意・排便感覚」 「本人の気持ち・意志」	信頼関係の構築 排泄パターンに応じ 定時声かけ 本人の行動・状態に応じて	39.2 40.6 12.5 15.2
尿意感覚	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち・意志」 「尿意・排便感覚」 「生活習慣(こ・数年)」	真意、ほめる 排泄パターンに応じ 本人の行動・状態に応じて 会話をしながら	5.7 8.5 13.3 5.2
失禁	「本人の気持ち・意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「失禁状況」 「失禁有無」	排泄パターンに応じ 本人の行動・状態に応じて 会話をしながら 本人だけに 移動時 おしりの状態をみる すばやく パッドをすばやく片付ける 真意、ほめる	7.1 17.2 14.3 7.7 8.1 10.6 6.3 7.8 7.0 10.2 12.6 11.5 6.0
時間間隔	「誘導の時間帯」 「排泄・排便時間」 「排泄間隔」 「排泄頻度」	排泄パターンに応じ 定時声かけ	35.1 41.7
排泄パターン	「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「排泄間隔」 「排泄頻度」 「排泄時間」 「排泄間隔」 「誘導の時間帯」	排泄パターンに応じ 定時声かけ 定時声かけ 本人の行動・状態に応じて 会話をしながら 職員と一緒に トイレという言葉を 사용하지 ない 移動時 真意、ほめる	27.4 14.9 14.0 5.9 5.0 5.2 13.1 7.7
様子	「拒絶時の表情」 「拒絶時の様子」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「排便状況」 「本人の気持ち・意志」 「性格」	本人の行動・状態に応じて 会話をしながら 本人だけに トイレという言葉を 사용하지 ない 移動時 すばやく 衛生・疾病の説明 パッド交換は職員で	23.8 9.6 8.6 10.1 7.6 12.4 5.9 6.0
心理	「本人の気持ち・意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「性格」 「気分」 「スタッフとの関係」	本人の行動・状態に応じて 会話をしながら 本人だけに トイレという言葉を 사용하지 ない 移動時 すばやく 真意、ほめる 定時声かけ 会話をしながら トイレ以外の理由で誘導	10.5 11.1 9.3 7.8 11.7 9.8 12.0 6.0 19.0
興味関心	「興味・関心」 「気分」 「本人の気持ち・意志」	会話をしながら トイレという言葉を 사용하지 ない	13.7 25.5

必要視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率
スタッフ関係	「スタッフとの関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「本人の気持ち・意志」	5.0 9.3 5.1
人間関係	本人だけに トイレという言葉を 사용하지 ない 移動時 真意、ほめる	9.2 13.4 13.2
関係性	「スタッフとの関係」 「他の入居者との関係」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「性格」	7.1 5.4 10.2 9.0 13.4 11.1 9.9 5.8

表3-11-1-3-2 排泄介護拒否を解決する際の視点と方法の組み合わせ

認知機能	必要な視点・留意点	解決方法(分類コードによる)	実施率		
認知機能	「本人の気持ち、意志」 「性格」 「認知機能」	トイレの言葉禁止	9.5		
		トイレに誘う	5.8		
		排泄パターンに応じ 本人だけに声かけ	5.7		
		好きな話題で声かけ	14.3		
		トイレ時の下着交換	6.8		
		事前に確認	10.9		
		排泄の遅れ	7.9		
		排泄後の処理をすばやく	8.9		
		信頼関係のある職員が	13.1		
		トイレの言葉禁止	5.3		
		トイレに誘う	7.3		
		排泄パターンに応じ	6.5		
		好きな話題で声かけ	12.8		
		排泄後の処理をすばやく	15.6		
		ケア方法の統一	8.1		
安心できる場所で	5.2				
心理	「気分」 「本人の気持ち、意志」 「スタッフの声かけ内容・見守り方」 「スタッフとの関係」 「性格」	トイレの言葉禁止	16.4		
		トイレに誘う	6.9		
		排泄パターンに応じ	5.3		
		本人だけに声かけ	12.0		
		好きな話題で声かけ	7.2		
		トイレ時の下着交換	17.9		
		排泄の遅れ	5.1		
		信頼関係のある職員が	9.7		
		安心できる場所で	12.6		
		トイレの言葉禁止	5.2		
		トイレに誘う	13.7		
		排泄パターンに応じ	7.8		
		本人だけに声かけ	6.8		
		好きな話題で声かけ	26.3		
		トイレ時の下着交換	6.0		
排泄の遅れ	5.6				
信頼関係のある職員が	6.8				
皮膚状態	「皮膚疾患」 「失禁有無」 「排泄状況」 「パッドの必要性」	薬の塗布	24.7		
		トイレに誘う	11.4		
		排泄パターンに応じ	17.7		
		好きな話題で声かけ	10.7		
		トイレ時の下着交換	11.2		
		排泄の遅れ	7.6		
		トイレに誘う	16.8		
		排泄パターンに応じ	38.9		
		好きな話題で声かけ	5.9		
		トイレ時の下着交換	8.2		
		排泄の遅れ	5.1		
		信頼関係のある職員が	7.9		
		安心できる場所で	9.4		
		好きな話題で声かけ	13.2		
		トイレ時の下着交換	7.4		
排泄の遅れ	5.3				
信頼関係のある職員が	15.1				
排泄パターン	「排便回数」 「本人の気持ち、意志」 「排便・排便時間」 「尿意・排便感覚」 「排便頻度」 「排便に関する生活習慣」	トイレの言葉禁止	7.6		
		トイレに誘う	16.8		
		排泄パターンに応じ	38.9		
		好きな話題で声かけ	5.9		
		トイレ時の下着交換	8.2		
		排泄の遅れ	5.1		
		トイレに誘う	7.9		
		排泄パターンに応じ	9.4		
		好きな話題で声かけ	13.2		
		トイレ時の下着交換	7.4		
		排泄の遅れ	5.3		
		信頼関係のある職員が	15.1		
		様子	「本人の気持ち、意志」 「スタッフとの関係」	トイレの言葉禁止	15.7
				トイレに誘う	22.5
				排泄パターンに応じ	7.4
好きな話題で声かけ	7.7				
トイレ時の下着交換	22.6				
排泄の遅れ	6.1				
トイレに誘う	11.9				
排泄パターンに応じ	7.7				
本人だけに声かけ	6.4				
家からの下着交換	21.4				
トイレ時の下着交換	17.2				
排泄の遅れ	6.7				
信頼関係のある職員が	10.4				
安心できる場所で	9.9				
トイレに誘う	10.2				
排泄パターンに応じ	13.7				
本人だけに声かけ	10.1				
事前に確認	9.7				
排泄後の処理をすばやく	9.8				
信頼関係のある職員が	15.5				
安心できる場所で	9.8				
トイレに誘う	6.2				
本人だけに声かけ	7.1				
好きな話題で声かけ	18.8				
排泄後の処理をすばやく	5.3				
信頼関係のある職員が	35.2				
トイレの言葉禁止	7.0				
トイレに誘う	17.3				
排泄パターンに応じ	6.1				
本人だけに声かけ	16.4				
好きな話題で声かけ	7.7				
排泄の遅れ	18.2				
信頼関係のある職員が					

表3-11-3-3 放尿を解決する際の視点と方法の組み合わせ

必要な視点・留意点		解決方法(分類コードによる)	実施率		
排泄状況	排泄パターン	「排泄間隔」	排尿パターンに応じ	63.7	
		「排泄頻度」	誘導回数を増やす	23.2	
	間隔頻度	「排泄間隔」	排尿パターンに応じ	24.4	
		「スタッフの声かけ内容・見守り方」	誘導回数を増やす	27.1	
		「排泄頻度」	状態に応じた	32.4	
		「本人の気持ち、意志」	繰り返し説明	8.4	
	失禁尿意	「尿意・排泄感覚」	状態に応じた	47.5	
		「失禁有無」	誘導回数を増やす	26.7	
		「水分状態」		15.2	
	尿意	「尿意・排泄感覚」	状態に応じた	11.8	
		「本人の気持ち、意志」	排尿パターンに応じ	45.8	
	排泄習慣	「生活状況(数日内)」	「スタッフの声かけ内容・見守り方」	繰り返し説明	9.5
			「本人の気持ち、意志」	状態に応じた	34.8
		「排泄・排尿時間」	「排泄間隔」	排尿パターンに応じ	34.8
			「睡眠時間・状況」	誘導回数を増やす	11.5
		「排尿頻度」	「生活状況(数日内)」	状態に応じた	30.4
			「排泄・排尿時間」	ポータブルトイレ	4.9
			「睡眠時間・状況」	薬調整、受診	6.3
「オムツパッドへの変更」	オムツパッドへの変更	4.7			
様子	表情様子	「スタッフの声かけ内容・見守り方」	排尿パターンに応じ	10.1	
		「スタッフとの関係」	誘導回数を増やす	9.1	
		「放尿時の様子」	状態に応じた	41.1	
		「放尿時の表情」	ポータブルトイレ	10.3	
			繰り返し説明	11.6	
	様子	「放尿時の様子」	状態に応じた	45.7	
		「本人の気持ち、意志」	トイレが見えるよう	5.7	
		「尿意・排泄感覚」	ポータブルトイレ	15.2	
		「排泄場所」	トイレの位置調整	7.9	
		「スタッフの声かけ内容・見守り方」	夜間照明	7.0	
環境	トイレ環境	「トイレの表示」	トイレが見えるよう	13.3	
		「トイレの場所」	ポータブルトイレ	3.5	
		「トイレの扉」	夜間照明	20.2	
			トイレ表示の工夫	50.1	
	トイレ場所	「トイレの場所」	排尿パターンに応じ	8.4	
		「排泄場所」	誘導回数を増やす	8.0	
		「排泄・排尿時間」	状態に応じた	7.4	
		「歩行・下肢機能」	ポータブルトイレ	21.3	
		「本人の気持ち、意志」	トイレの位置調整	9.2	
			夜間照明	15.0	
			繰り返し説明	12.0	
	場所	「スタッフの声かけ内容・見守り方」	状態に応じた	15.4	
		「トイレの場所」	トイレが見えるよう	8.3	
		「トイレの表示」	トイレの位置調整	7.6	
		「スタッフとの関係」	夜間照明	13.8	
		「排泄場所」	トイレ表示の工夫	21.1	
		「見当識」	繰り返し説明	22.0	
表示	「スタッフの声かけ内容・見守り方」	状態に応じた	14.8		
	「本人の気持ち、意志」	トイレが見えるよう	9.4		
	「生活習慣(ここ数年)」	ポータブルトイレ	6.0		
	「トイレの表示」	トイレの位置調整	6.5		
		夜間照明	9.0		
		トイレ表示の工夫	29.2		
		繰り返し説明	7.2		
職員関係	スタッフ関係	「スタッフの声かけ内容・見守り方」	排尿パターンに応じ	9.5	
		「本人の気持ち、意志」	誘導回数を増やす	8.8	
	「スタッフとの関係」	「気分」	状態に応じた	44.7	
			繰り返し説明	11.0	

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）  
分担研究報告書

認知症ケアにおけるアウトカム指標に関する研究

研究分担者 佐々木 心彩（日本大学文理学部人文科学研究所）

研究要旨

本研究では、認知症高齢者の日常生活におけるケアに対する反応を介護者がどのような側面からとらえているかを把握し、ケアのアウトカム指標作成の基礎資料とすることを目的とし、全国の認知症介護指導者を調査対象者として郵送調査を行った。ケアに対する利用者の反応として、非言語的側面 45 項目に対する感情状態の評価と表出の頻度についての回答を求めた。

その結果、介護者は笑顔、スキンシップ、視線を合わせるといった行動・様子から利用者の快感情を推測し、実際にこれらの行動・様子が利用者にもみられる頻度も高いということが示された。また、不快な感情の表出が認められる頻度は全般的に低いものであったが相対的な頻度の高いものとしては、乱暴な言葉づかい、大きな声を出すという行動・様子は不快感情を推測するものであるということが示された。しかしながら、それぞれの行動・様子が、単一の側面のみでは評価が困難であることや場面・状況に応じて快にも不快にも判断されうるということが考えられ、高齢者全般に適用可能な項目のほかに、判断の分かれる項目や不快と判断されるものの出現頻度の低い項目をもとにした対象者の観察から、個別項目として取捨選択し、アウトカム指標として検討する必要性がある。

A. 研究目的

高齢者介護研究会（2003）による報告書「2015 年の高齢者介護～高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて～」では、要介護高齢者のケアにおいては、身体ケアに加えて認知症高齢者に対応したケアを標準として位置付けていくことが重要目標として掲げられている。そして、認知症高齢者ケアの標準化、方法論の確立が大きな課題となっている。

これらを進めるためには、高齢者の状態の適切なアセスメント、それにもとづいた適切なケア、さらに結果の評価方法を確立することが必要となる。

本研究では、認知症高齢者に対するケアの結果の評価として、個々のケア行為に対する高齢者の反応を短期的なアウトカムととらえることを試み、アウトカム評価指標作成のための基礎資料とすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査対象者について

## 1) 認知症介護指導者

認知症介護指導者は2000年より始まった認知症介護研修事業における認知症介護指導者養成研修を修了された、都道府県政令指定都市の認知症介護を指導するエキスパートとして、各地域の認知症介護研修（実践者研修、実践リーダー研修、管理者研修、計画作成担当者研修、開設者研修）を企画しつつ、講義、演習、実習等の講師やファシリテーターを担当し、担当地域の介護保険施設・事業所等における認知症介護の質の改善について指導や助言を現在実践しており、全国で約1000名程度活躍している（平成19年度11月現在）。

認知症介護指導者養成研修の受講要件として以下の4つの条件を全て満たすこととされ、非常に厳格な条件が決められており、さらに各行政担当者の推薦を要する。

- (1) 医師、保健師、助産師、看護師、准看護師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士、言語聴覚士または精神保健福祉士いずれかの資格を有する者、またはこれに準ずる者。
- (2) 下記のいずれかの要件に該当する者であって、相当の介護実務経験を有する者
  - ①介護保険施設・事業所等に従事している者（過去において介護保険施設・事業所等に従事していた者も含む。）
  - ②福祉系大学や養成学校等で指導的立場にある者
  - ③民間企業で認知症介護の教育に携わる者
- (3) 認知症介護実践者研修並びに認知症介護実践リーダー研修を修了した者（基礎課程並びに専門課程を修了した者を含む）、又はそれと同等の能力を有すると実施主体が認めた者
- (4) 認知症介護実践研修の企画・立案に参画または講師として従事することが予定されている者

以上の条件に合致し、さらに全国3か所設置されている認知症介護研究・研修センターにて10週間の認知症介護指導者用カリキュラムを受講し修了したものが認知症介護指導者として認められることになる。

認知症介護エキスパートの要件として認知症介護指導者の要件はライセンス、教育経験ともに合致しており認知症介護指導者を認知症介護エキスパート候補としてみなすこととし、本研究の対象とした。

## 2) 調査対象者

平成13年度1回目～平成19年度1回目までの認知症介護指導者研修を修了した全国の認知症介護指導者894名を対象とした。

## 2. 調査方法

### 1) 調査期間

調査期間は平成 20 年 12 月であった。

## 2) 手続き

調査対象者が所属する事業所に調査用紙を郵送にて配布し、記入後に返送により回収する郵送法によって実施した。

## 3. 調査項目

調査項目は以下の通りであった。

### 1) 対象者の基本属性

対象者の基本属性として、年齢、性別、職種、役職、所有資格、所属事業所の事業種、現事業所の勤続年数、介護経験期間について回答を求めた。

### 2) 評価対象者の属性

利用者の中から 1 名を選択し、その利用者に対するケアの評価について回答を求めた。選択した高齢者に関する属性として、年齢、性別、認知症高齢者の日常生活自立度、障害高齢者の日常生活自立度について回答を求めた。

### 3) 非言語的側面に対する認識

利用者の中から選択した 1 名の高齢者に対してケアを行った際にみられる反応の中で、非言語的な側面についての感情（快－不快）の評価と日常的に実際に見られる頻度について回答を求めた。感情評価については、「a 快」、「b 不快」、「c どちらともいえない」の中から選択するよう求めた。頻度については、「5 いつもみられる」、「4 たいていみられる」、「3 ときどきみられる」、「2 あまりみられない」、「1 まったくみられない」の中から選択するよう求めた。

### 4) 高齢者の感情状態把握のためのその他の手がかりについて

3) に挙げた 45 の側面のほか、高齢者の感情状態を把握するための手がかりを自由記述によって回答を求めた。

### 5) 認知症ケアに対する意識

認知症ケアに対する意識をたずねる項目として、パーソンセンタードケアにおける相互作用を持続させる関わりと、相互作用を中断させる関わり方に関する 17 項目に対して回答を求めた。

### 6) 認知症介護について

認知症介護の経験について、認知症介護の経験期間、認知症介護を実際に行った直近日、現在行っている認知症介護の頻度、認知症介護の成功体験の頻度に対する回答を求めた。

## (倫理面への配慮)

本研究では、調査協力者である介護職員等に対して、個人情報取り扱いや人権擁護に配慮し、十分なインフォームドコンセントを保証することを最優先し、研究等によって被



ることが予測される不利益について説明文書を作成し、十分な説明を行い、文書にて同意を得ることとしている。

## C. 結果と考察

### 1. 調査協力者について

調査対象者 894 名のうち、271 名から調査票が回収された（回収率 30.3%）。すべてが未回答であった調査票を除き有効回答数は 270 名であった。調査協力者の属性は以下の通りであった。

#### 1) 年齢

調査協力者の平均年齢は 44.39 歳 (SD:10.81、範囲 26-87; 男性 38.4 歳 [SD:9.3]、女性 47.5 歳 [SD:10.3]) であった。

#### 2) 性別

調査協力者の性別は、男性 91 名、女性 177 名、不明 2 名であった。(表 4-1 参照)

#### 3) 職種

現在の職種（複数回答）は、ケアワーカー 65 名（全体の 24.1%）、相談員 40 名（全体の 14.8%）、ケアマネジャー 68 名（全体の 25.2%）、看護師 52 名（全体の 19.3%）、その他 60 名（全体の 22.2%）であった。(表 4-2 参照)

#### 4) 役職

現在の役職（複数回答）は、施設長 28 名（10.4%）、管理者 91 名（33.7%）、主任・リーダー 76 名（28.1%）、事務長 3 名（1.1%）、社長 5 名（1.9%）、理事長 2 名（0.7%）、その他 66 名（24.4%）であった。(表 4-3 参照)

#### 5) 資格

現在の所持資格（複数回答）は、看護師（准看護師）66 名（24.4%）、介護福祉士 156 名（57.8%）、社会福祉士 45 名（16.7%）、ケアマネジャー 171 名（63.3%）、ヘルパー 29 名（10.7%）、理学療法士 2 名（0.7%）、作業療法士 3 名（1.1%）、栄養士 2 名（0.7%）、その他 37 名（13.7%）であった。(表 4-4 参照)

#### 6) 事業種

現在勤務している事業所の事業種（複数回答）は、介護老人福祉施設 84 名（31.1%）、介護老人保健施設 131 名（48.5%）、介護療養型医療施設 7 名（2.6%）、通所介護事業 31 名（11.5%）、通所リハビリ事業 6 名（2.2%）、訪問介護事業 16 名（5.9%）、認知症対応型共同生活介護 65 名（24.1%）、小規模多機能型共同生活介護 13 名（4.8%）、居宅介護支援事業所 24 名（8.9%）、地域包括支援センター 3 名（1.1%）、市役所 2 名（0.7%）、宅老所 2 名（0.7%）、特定入居者生活介護事業 3 名（1.1%）、その他 27 名（10.0%）であった。(表 4-5 参照)

#### 7) 現事業所の勤続期間

現在勤務中の事業所の平均勤続期間は、約 9 年 6 か月 (114.31 か月 [SD81.03、範囲 3-404]) であった。

#### 8) 総介護経験期間

総介護経験期間の平均は、約 14 年 (167.80 か月 [SD90.77、範囲 9-564]) であった。

### 2. 想定した利用者についての属性

評価対象として利用者の中から 1 名の高齢者の選択を求めたが、高齢者の属性については以下の通りであった。

#### 1) 年齢

高齢者の平均年齢は、83.3 歳 (SD:8.1) であった。

#### 2) 性別

高齢者の性別ごとの人数は、男性 60 名、女性 200 名、不明 10 名であった。(表 4-6 参照)

#### 3) 認知症高齢者の日常生活自立度

選択した高齢者の認知症高齢者の日常生活自立度について 267 名から有効回答が得られ、I が 14 名 (5.2%)、II が 65 名 (24.3%)、III が 92 名 (34.5%)、IV が 88 名 (33.0%)、M が 8 名 (3.0%) であった。(表 4-7 参照)

#### 4) 障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)

選択した高齢者の障害高齢者の日常生活自立度について 264 名から有効回答が得られ、J が 68 名 (25.8%)、A が 159 名 (60.2%)、B が 32 名 (12.1%)、C が 5 名 (1.9%) であった。(表 4-8 参照)

### 3. 高齢者の感情状態の評価について

「2.」で想定した利用者の中から選択した 1 名の高齢者について、ケアを行った際の様子について評価を求めた。それぞれの項目に示した行動、様子が見られた場合に、どのような感情状態であると推測するかについて「快」-「不快」または「どちらともいえない」の中から当てはまるものを選択するよう求めた。さらに、日常の介護において実際にどのくらいの頻度で項目に示した行動、様子がみられるかについて回答を求めた。

#### 1) 各項目について

##### (1) 視線を合わせる、顔を見つめる

ケアに対する利用者の反応として「視線を合わせる、顔を見つめる」についての有効回答は 265 名であり、推測する感情状態は、「快」173 名 (65.3%)、「不快」12 名 (4.5%)、「どちらともいえない」80 名 (30.2%) であった。頻度については、「全くみられない」1 名 (0.4%)、「あまりみられない」6 名 (2.3%)、「と

きどきみられる」58名(21.9%)、「たいていみられる」138名(52.1%)、「いつもみられる」62名(23.4%)であった。(表4-9参照)

(2) 姿勢がよい(まっすぐである)

ケアに対する利用者の反応として「姿勢がよい(まっすぐである)」についての有効回答は259名であり、推測する感情状態は、「快」139名(53.7%)、「不快」15名(5.8%)、「どちらともいえない」105名(40.5%)であった。頻度については、「全くみられない」10名(3.9%)、「あまりみられない」32名(12.4%)、「ときどきみられる」54名(20.8%)、「たいていみられる」91名(35.1%)、「いつもみられる」72名(27.8%)であった。(表4-10参照)

(3) あなたをつねる

ケアに対する利用者の反応として「あなたをつねる」についての有効回答は226名であり、推測する感情状態は、「快」6名(2.7%)、「不快」164名(72.6%)、「どちらともいえない」56名(24.8%)であった。頻度については、「全くみられない」153名(67.7%)、「あまりみられない」43名(19.0%)、「ときどきみられる」26名(11.5%)、「たいていみられる」2名(0.9%)、「いつもみられる」2名(0.9%)であった。(表4-11参照)

(4) あなたから距離をとったり、別の場所(別の部屋など)へ行く

ケアに対する利用者の反応として「あなたから距離をとったり、別の場所(別の部屋など)へ行く」についての有効回答は249名であり、推測する感情状態は、「快」6名(2.4%)、「不快」141名(56.6%)、「どちらともいえない」102名(41.0%)であった。頻度については、「全くみられない」67名(26.9%)、「あまりみられない」73名(29.3%)、「ときどきみられる」84名(33.7%)、「たいていみられる」19名(7.6%)、「いつもみられる」6名(2.4%)であった。(表4-12参照)

(5) 自分の体を搔く

ケアに対する利用者の反応として「自分の体を搔く」についての有効回答は232名であり、推測する感情状態は、「快」5名(2.2%)、「不快」135名(58.2%)、「どちらともいえない」92名(39.7%)であった。頻度については、「全くみられない」86名(37.1%)、「あまりみられない」90名(38.8%)、「ときどきみられる」47名(20.3%)、「たいていみられる」7名(3.0%)、「いつもみられる」2名(0.9%)であった。(表4-13参照)

(6) 上半身を反らす

ケアに対する利用者の反応として「上半身を反らす」についての有効回答は222名であり、推測する感情状態は、「快」12名(5.4%)、「不快」89名(40.1%)、「どちらともいえない」121名(54.5%)であった。頻度については、「全くみられない」115名(51.8%)、「あまりみられない」67名(30.2%)、「ときどきみられ

る」38名(17.1%)、「たいていみられる」2名(0.9%)、「いつもみられる」0名(0.0%)であった。(表4-14参照)

(7) あなたから視線をそらす

ケアに対する利用者の反応として「あなたから視線をそらす」についての有効回答は244名であり、推測する感情状態は、「快」4名(1.6%)、「不快」149名(61.1%)、「どちらともいえない」91名(37.3%)であった。頻度については、「全くみられない」45名(18.4%)、「あまりみられない」96名(39.3%)、「ときどきみられる」90名(36.9%)、「たいていみられる」9名(3.7%)、「いつもみられる」4名(1.6%)であった。(表4-15参照)

(8) 貧乏ゆすりをする

ケアに対する利用者の反応として「貧乏ゆすりをする」についての有効回答は226名であり、推測する感情状態は、「快」1名(0.4%)、「不快」118名(52.2%)、「どちらともいえない」107名(47.3%)であった。頻度については、「全くみられない」158名(69.9%)、「あまりみられない」40名(17.7%)、「ときどきみられる」20名(8.8%)、「たいていみられる」7名(3.1%)、「いつもみられる」1名(0.4%)であった。(表4-16参照)

(9) 問いかけに対し、すぐに返事をする

ケアに対する利用者の反応として「問いかけに対し、すぐに返事をする」についての有効回答は258名であり、推測する感情状態は、「快」154名(59.7%)、「不快」13名(5.0%)、「どちらともいえない」91名(35.3%)であった。頻度については、「全くみられない」3名(1.2%)、「あまりみられない」17名(6.6%)、「ときどきみられる」44名(17.1%)、「たいていみられる」123名(47.7%)、「いつもみられる」71名(27.5%)であった。(表4-17参照)

(10) 肩をすくめる

ケアに対する利用者の反応として「肩をすくめる」についての有効回答は238名であり、推測する感情状態は、「快」38名(16.0%)、「不快」76名(31.9%)、「どちらともいえない」124名(52.1%)であった。頻度については、「全くみられない」69名(29.0%)、「あまりみられない」82名(34.5%)、「ときどきみられる」73名(30.7%)、「たいていみられる」10名(4.2%)、「いつもみられる」4名(1.7%)であった。(表4-18参照)

(11) 横を向く

ケアに対する利用者の反応として「横を向く」についての有効回答は243名であり、推測する感情状態は、「快」4名(1.6%)、「不快」147名(60.5%)、「どちらともいえない」92名(37.9%)であった。頻度については、「全くみられない」37名(15.2%)、「あまりみられない」94名(38.7%)、「ときどきみられる」96名(39.5%)、「たいていみられる」14名(5.8%)、「いつもみられる」2名(0.8%)